

令和7年度豊かなむらづくり全国表彰事業（近畿ブロック）

農林水産大臣賞

おがわちいきたなだしんこうきょうぎかい わかやまけんきみのちょう
小川地域棚田振興協議会（和歌山県紀美野町）



【「中田の棚田」全景】



【稲刈り収穫後の様子】



【用水を供給する竜王水の清掃活動】

【概要】

1 むらづくりの動機・背景

紀美野町小川地域に位置する「中田の棚田」は、室町時代の高野山文書にその存在が記され、600年以上の歴史を有するが、地域の過疎化、高齢化により、耕作放棄地が増加していた。

地域では、平成30年頃から棚田の再生活動について検討をはじめ、令和2年には、紀美野町まちづくり推進協議会のメンバーや棚田を再生したい人々が集まって、棚田の再生に向けた活動と地域活性化を目的とした「小川地域棚田振興協議会」（以下、「協議会」という。）を設立し、「中田の棚田再生プロジェクト」を立ち上げた。

2 むらづくりの内容

協議会は、地域住民、紀美野町、和歌山県や和歌山大学が行う地域連携プログラムと密接に連携し、産官学連携による地域づくりを行っており、これまで1.8haを復田し、農薬・肥料を使わない自然栽培により、生産物の付加価値を高めている。

また、「中田の棚田再生プロジェクト」として、

- （１）草刈り、耕耘などの棚田再生活動、米作りや野菜の栽培、棚田に用水を供給する竜王水の清掃及び整備補修等の維持管理、
 - （２）地元高校、小学校が参加した田植え、草刈り、稲刈りの農業体験や棚田を天然のビオトープとして活用した生物多様性を学ぶ授業の実施
 - （３）しめ縄・鍋敷きを作成する「稲わらワークショップ」などのイベントの開催
 - （４）地域の伝統文化である「梅中傘踊り」の伝統芸能の保全・継承
 - （５）「棚田だより」やSNS等による、活動状況やイベントの情報発信
- などに取り組んでいる。

これにより、棚田の再生という困難な取組であるにもかかわらず、「中田の棚田」の再生活動に共感した多くの関係者と密接に連携して着実に成果をあげるとともに、棚田地域の持続的発展、関係人口の増加に寄与している。